

第6学年 特別活動学習指導案

平成30年10月 4日(木) 第5時

6の4教室 授業者 稲垣 満夫

1 題材名 響け、自慢の歌声！～史上最高の上とだれからも認められる姿をめざして～

2 題材目標

- ・自慢の歌声を響かせるために、すすんで練習に取り組み、仲間と関わりながら歌うことができる。
(関心・意欲・態度)
- ・自分たちの取り組み方をふり返り、話し合いを通して課題を克服する方法を考えることができる。
(思考・判断)

3 児童の実態と議題設定の理由

(1) 児童の実態

本学級の子供は、個性豊かでお互いの良さを認め合いながら、より高い目標に向かって取り組んでいる。学級目標を決める際には、昨年度の反省を生かし、様々な角度からめざしたい姿が出された。話し合いを通して、それぞれの意見の良さに気付き、小学校生活最後の1年間を盛り上げ、思い出に残したいという意見にまとまった。また、学年スローガンのサブタイトルを決める際にも去年の6年生を超えたいという意見を述べ、「信頼～一人一人が考え、史上最高の上と誰からも認められる姿～」となった。

4月に行われた学年ダンス大会では、体育館が揺れるほど元気に盛り上がり、笑顔で楽しく踊ることができた。元気に踊れる子供が全体にアドバイスをする度に、踊りの動作や声の大きさが増していった。そして、楽しい雰囲気が全体に広がっていき、クラスが一つになった。6月では、「最高学年としてクラスをレベルアップさせよう」という議題で学級会を行い、「発言をもっとできるようにしたい」という願いを述べた。活動内容を決める際に、競い合う案が出され、個人か班で競うか意見が割れた。そのとき、思いやりのある子が「苦手な子へのアドバイスができるし、協力し合えるから班対抗がいい」という意見を述べ、みんなの共感を得た。勉強が得意な子が声かけやアドバイスをして活動を引っぱることで、発言が苦手な子供も意見を述べる不安を解消することができ、みんなに同意してもらい喜びを感じることができた。

このように1学期では、様々な活動を通して、学級や学年としての関わりを通して、集団としての力を高めてきた。各リーダーが積極的に引っ張っていくことでレベルアップできた経験を生かし、2学期では、より集団としてのまとまりを高めていきたい。また、リーダーだけに任せるのではなく、話し合いを通して自分の意見を伝え、全員で合意形成をして取り組んでいきたい。

(2) 題材設定の理由

本学校は、歌声の響く学校という特色があり、けやき集会という音楽発表の行事が1年間で3回ある。たくさんの拍手で包まれる発表や全校で楽しく歌って踊る『僕らは鶴城の子供たち』の姿から歌に親しんでいる様子が見え、また、この行事は保護者も参観することができ、全校児童や保護者に6年生としての成長や努力の成果をみせるのにつけてである。また、自分たちで話し合い、合意のもと活動を行うよい機会となる。けやき集会の1か月後には学芸会があり、3学期には卒業式がある。けやき集会の反省を生かして、より史上最高と認められるように取り組める場として最適であると考えられるのである。

4 指導計画・・・8時間完了

入口の姿 歌が好きだし、自分たちの歌声はきれいだ。歌で史上最高の上の姿を目指していこう。			
段階	活動内容	教師支援	めざす児童の姿
計画	○けやき集会に向けて話し合いをしよう (1)		
	○けやき集会の目標考えよう。 ・史上最高の上と認められる歌声を響かせて、感動させたい。	・ビデオを使って、超えるべき目標を明確化する。	・意見を交換し、クラスを目指す姿を決定する。
実行	○練習の成果を生かして、けやき集会を行おう (1)		
	○歌声でも史上最高の上と認められる姿をみせよう。 ・きれいな歌声をもっと聞いてもらえるように大きな声で歌いたいな。 ・歌う姿でも気持ちを伝えたい。	・各クラスで史上最高の上と認められるためのポイントを集約し、クラス対抗の審査会を行う。	・よりよい発表になるようにポイントを意識しながら練習の成果を発揮しよう。
話し合い	○けやき集会の振り返りをしよう (2) 本時2/2		
	○振り返りをしよう。 ・音が外れないか不安だった。 ・恥ずかしくて口を大きく開けられなかった。 ○学芸会の歌声コンクールへ向けて具体的な活動を話し合おう。 ・練習時間が少ないから、毎日のけやきタイムに自主練習をしよう。 ・自分から声かけや前に立ってのアドバイスができるといいな。	・学芸会の歌に向けて活動ができるように、課題を焦点化する。 ・決まったことの確認をして合意形成をする。 ・積極的に活動に取り組めるように、自分はどうのようにして活動に参加するか問いかける。	・振り返りの確認やビデオを見ることで今までの現状や活動を把握できる。 ・よりよい歌が歌えるように改善策を考え、自分から活動に取り組まないとレベルアップは難しいと気付くことができる。
実行	○学芸会の歌声コンクールを行おう (1)		
	○思いをこめて、歌声を響かせよう。 ・今まで練習してきた成果を存分に出しきろう。 ・劇の内容や歌詞を思い浮かべて歌う。	・思いをこめて歌声を響かせられるように子供から思いをきいて集約する。	・劇の内容や歌詞を考えると、より美しい歌声を響かせることができた。
話し合い	○学芸会の歌声コンクールの振り返りをしよう (2)		
	○活動に対して振り返りをしよう。 ・自分たちで練習を重ねたおかげで自信をもって歌うことができた。 ・あの姿なら認めてもらえそう。 ○次に向けて具体的な活動を話し合う。 ・全員が気持ちを込められるようにもってがんばれる雰囲気をつくろう。 ・アドバイスはみんなができると思うから、順番にしてもいいね。	・過去の取り組みを卒業式に繋げられるように、関連性を伝える。 ・期間が長いので、無理なく行えるように活動の精選をする。 ・自治を高めるために、活動への取り組み方も視点として与える。	・学芸会がゴールではなく、卒業式で最高の歌声を響かせようとこれからは気持ちを高め、練習の方法や取り組み方を考えることができる。
実行	○卒業式で史上最高の上の歌を響かせよう (1)		
	○聞く人だけでなく、自分たちも感動できる卒業の歌を歌おう。 ・3学期も自主練習をまたやろう。 ・毎回の練習の時間や指導を無駄にしないように、きりかえを意識しよう。 ・みんなで声をかけあって、温かい雰囲気練習をしよう。	・歌に自信がもてるように、活動と成果を可視化できるようにする。 ・気持ちを共有できるように、毎回の練習に感想や評価を伝えられる場を設ける。	・第3回、4回信頼カップを通して、自分たちの歌に自信をもち、誰からも史上最高の上と認められる姿になる。
出口の姿 自分の歌に自信をもち、だれからも史上最高の上と認めてもらえるよ。			

5 本時の展開

(1) 本時のねらい

学芸会で美しい歌声を響かせられるように、具体的な活動を話し合うことができる。また、その活動に対して積極的に取り組む必要性を実感することができる。

(2) 本時の流れ

入口の姿 もっときれいな歌声を響かせるために「一人一人が自分の気持ちを歌にこめる」ことができるようになりたいな。具体的な方法を考えていこう。		
段階	話し合いの順序と予想される反応	教師支援
つかむ 5分	1 前時の課題をふまえて本時の議題と話し合いの流れを確認する。 「一人一人が自分の気持ちを歌にこめる」ことができるように、具体的な活動を考えよう。	<ul style="list-style-type: none"> 前時の話し合いを振り返り、話し合いのポイントや流れをわかりやすくするために、議題や話し合う内容を掲示しておく。
かかわる 35分	2 学芸会の歌に向けて「一人一人が自分の気持ちを歌にこめる」ことができるように具体的な活動内容を決めよう。 ○自主練習 ・前回と同じく休み時間や朝ドリルに練習をしたいな。 ・二重円になって、お互いの表情を見ながら歌おうよ。 ・込めてほしい気持ちを伝えてから練習しよう。 ・ipadを使って、みんなの表情を確認したい。 ・みんなで楽しく練習をしたいな。 ・大きさに感情をこめて歌ってみたい ○部分練習 ・いろいろな表現をこめる練習をしたいな。 ・表情を変える練習をしたい。 ・完璧になるまで何度も練習を重ねる。 ○歌詞の意味や気持ちをこめる ・歌詞を読む時間をつくろう。 ・学年で歌詞から気持ちを読み取る話し合いをしたいな。 3 この具体的な内容をするために、自分の活動と必要な役割を考えよう。 ・放課の練習から積極的に参加したいな。 ・できていない人に声かけをして、みんなでがんばりたい。 ・自主練習を盛り上げられるように、前に立ちたいな。 ・みんながレベルアップできるようにアドバイスしたい。 ・歌が苦手なので、できるだけ参加したいな。	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えに自信をもち、積極的に発表できるようにするため、前回の学級会日記に朱書を入れる。それをもとに話し合いに参加できるようにする。 座席表にそれぞれの意見を記入したものを司会者に渡し、話し合いが理解しやすいように関連した意見から指名する。 合意形成を得られるように、何のために行う活動であるか確認する。 具体的な活動ができるように、あいまいな表現に対して「どのようにやりますか」と切り返しの質問をするように言指示をしておく。 一人一人が考えて活動を行えるように、「これで本当にできるのか」「自分はどのように活動に参加するか」とみんなに問い返す。
深める 5分	4 学級会日記を書く ・よりよい歌声になるように、積極的に協力をしよう。 ・近くの人に声かけをして、楽しく歌える雰囲気をつくろう。 ・積極的に手本となる姿をみせて、自信のない子をひっぱってあげたいな。 ・がんばっている人の雰囲気に乗って、自分も楽しんでいきたいな。 5 教師の話聞く	<ul style="list-style-type: none"> 決まった活動内容について自分ができていることをふり返りの視点とする。 その後の活動が意欲的に取り組めるように、今回の話し合いの良かった点について話し、励ましの言葉かけをする。
出口の姿 一人一人が積極的に活動にかかわっていくことで、「一人一人が自分の気持ちを歌にこめる」ことにつながるんだね。自分もみんなのために活動するぞ。		